

Study Abroad Case 2

大学生活で人生最大級のチャレンジを

松江 理沙子

実家から大学に通っており親元も離れたこともない自分、「井の中の蛙」状態の自分に未熟さを感じていました。「人間的にこんな未熟なままで自分は社会に出られるのか」、大学1年生の終わり頃にふと疑問に思ったのが留学を決意したきっかけでした。留学以前からアメリカ大使館の学生団体に所属し、社会科学部では国際政治を中心に学んでいたこともあり、**より広い世界を、世界の政治が動く瞬間をこの目で見て見たい**と思い、アメリカへの留学を決めました。せっかく留学するなら自分が最大限成長する方法で留学したいと思い、慣れないTOEFLでなんとか条件ギリギリのスコアを取得し、留学センターの数少ない交換留学プログラムの枠を得ることができました。



交換留学になると、**現地の大学の授業を語学サポートなしで、現地の学生たちと同様に履修しなくてはならない**ので、ある程度のハードさは覚悟していましたが、現実には想像以上の大変さ。日本の高校教育のように毎日のように小テストや課題があり、それを英語でこなさなくてはならないため、日本語が母語の私には、授業以外の時間も常に机に向かうしか方法がありませんでした。しかし、私は幸運にも大学寮でルームメイトとなった現地生をはじめ、周りの人間関係に恵まれたことで、慣れない異国での生活でも精神的サポートを得ることができ、大変ながらも楽しく充実した1年間を送ることができました。日本人がほとんど周りにいない環境下で、英語を母語とする人々、しかも文化もこれまでのバックグラウンドもまったく異なる人々と暮らすことで身につけたことは、**人と触れ合う際に先入観を持たずにその人の本質に目を向けようとする姿勢**です。1年の留学生活で数々の多様性に触れてきたことで、様々なことに関する寛容性を身につけ、人それぞれの本質を捉えることの大切さを学んだと思います。

私にとって1年の留学生活は、**自分の人生において後にも先にもないような最大級のチャレンジ**であったと胸を張って言い切ることができますし、留学を通して得たことは今後の自分の将来にとって大きな糧になったと自負しています。留学をとおして得ることは十人十色であって当然のこと。少しでも留学に興味がある学生には、何事にも恐れずにチャレンジしてほしいなと思います。



Personal Data 松江 理沙子 (まつえ りさこ)

留学先：カリフォルニア州立大学サクラメント校 (米国) EXプログラム

留学期間：2014年9月～2015年7月 (留学時の学年：3年生)

ゼミナール：国際協力と平和構築 (山田満ゼミナール) 所属

卒業後の進路 (予定)：2016年春就職活動、9月卒業予定